

教科 体育・保健体育

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 1 2年間を見通しながら領域構成と内容を踏まえ、バランスのとれた指導計画を作成し、基礎的・基本的な内容の確実な定着と体力の向上を図る。	◎ <b>学習内容が確実に定着できるように（2学年をひとまとまりにした、運動の取り上げ方を一層弾力化した）指導計画を作成する。</b> ○ 次のことを踏まえて、体力向上推進計画を作成・実践する。 ① 新体力テストの結果を踏まえ、自校の課題を明確にする。 ② 具体的で組織的な解決策を位置付ける。 小：運動身体づくりプログラムの共通実践、業間運動の工夫など 中：運動の特性に応じた補強運動の工夫、部活動の工夫など
指導の工夫	○ 主体的な学習を通して生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するよう指導方法の改善充実を図る。  ○ 保健・安全指導の充実を図り、事故を防止する。	【運動領域・体育分野】 ○ 子どもの発達の段階を考慮し、各運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識等がバランスよく身に付くように、指導内容の整理と体系化を図る。 【保健領域・保健分野】 ○ 保健学習において、思考力・判断力等の育成に向けた多様な指導方法（専門性を有する教職員とのチームティーチングや課題学習など）を工夫する。 ○ 場の安全を確かめたりや用具の扱い方を指導したりするなどして事故防止に万全を期すとともに、事故発生時に十分な対応ができるよう連絡体制や救急体制を定期的に確認する。
評価の充実	○ 目標の実現状況を的確に把握し、指導の充実を図る。	◎ <b>1時間に評価する観点を1～2項目に絞り、単元全体で各観点をバランスよく評価できる評価計画を作成する。</b> ○ 適切な評価とつまずきのある子どもに対しての具体的な支援ができるように、目標を実現した「子どもの具体的な姿」を想定して指導と評価の一体化を図る。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント1（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3）  
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構成の工夫

- ◎ **学習内容が確実に定着できるように（2学年をひとまとまりにした、運動の取り上げ方を一層弾力化した）指導計画を作成する。**
- 2年間を大きな単元のように捉え、1年間で実施するのか、2年間に分けて実施するのかを検討し、指導内容を確実に積み上げることができる指導計画とする。
- ※ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料  
【小学校】P71（平成23年11月国立教育政策研究所）

授業づくりのポイント6  
（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）  
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

- ◎ **1時間に評価する観点を1～2項目に絞り、単元全体で各観点をバランスよく評価できる評価計画を作成する。**
- 右図のような単元構成図を作成し、評価機会の検討をする。
- 例：【E球技】ネット型
- 学習指導要領に示された指導内容をバランスよく配置する。
  - 「運動への関心・意欲・態度」及び「運動の技能」は、定着に時間を要し、観察評価が中心となるため、指導の機会と観察評価期間を設けて評価するように位置付ける。
  - 「運動についての知識・理解」及び「運動についての思考・判断」は、その時間に評価するよう位置付ける。
- ※ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料  
【中学校】P55（平成23年11月国立教育政策研究所）

